

令和 5 年度 広神東小学校 学校経営方針

校長

コロナ禍の3年の間に、学校は一人一台端末というツールを加え、新たな学びや情報連携手段を得た。さらに、昨年度から当校はCS（コミュニティスクール）事業を生かした地域に根差した教育活動などを充実させ、子どもにとってより価値ある学びや安全・安心な学校づくりを進めた。

今年度はコロナ制限緩和禍となる。授業における一人一台端末活用を図りながら、課題となる学力向上への取組を充実させる。そして、心や体の面でコロナ禍の影響が残る子どもの問題に目を向け、子どもの安心・安全を守りながら、当校の教育活動を、さらに創意工夫して確実にやっていく。

◆広神東小学校 教育目標

- すすんで学び くふうする子ども
- 力を合わせて やりぬく子ども
- 明るく 元気な子ども

◆R 5 年度重点目標

「意欲を持って 聴き合い・伝え合う子」(1年次)

私は校長として、学校経営で以下のスローガンを掲げ、広神東小の教育目標・重点目標の具現化を図る。

◆学校経営スローガン：「あい」「たい」がある学校を みんなで創る

「あい」…「高め合い」「認め合い」「支え合い」 のびていく子どもたちと
 「たい」…「学びたい」「通わせたい」「勤めたい」 保護者・地域・職員

- 1 高め合い学びたい学校 ～「意欲・かかわり」を育て、子どもの自己肯定感を高める～
- 2 認め合い通わせたい学校 ～子ども・保護者・地域の思いを認め、教育活動に生かす～
- 3 支え合い勤めたい学校 ～職員自身のスキルアップと「チーム広神東」への結集を図り、支え合って魅力ある職場への働き方改革を行う～

子どもが高め合い学びたい学校を目指すためには、土台となる温かい学級・仲間作りが大切である。支持的風土がある、互いが認め合い高め合う学級づくりを行う。授業は、教育活動の中核である。私たち教職員は「主体的・対話的で深い学び」の視点にたった授業改善を進めることで力量を高める。子どもの声を生かした学習課題を、ICTの活用や、仲間との協働で解決を進めることで、子どもの「自己肯定感」を高め、未来を生きる子どもたちに必要な、たくましい力を身に付けさせる。

保護者・地域が認め合い通わせたい学校を目指すためには、保護者・地域とともに歩む学校づくりが不可欠である。保護者・地域の願いをCS委員会との連携や学校評価でみとる。学校の様子を日々地域に伝え積極的に協力・支援を呼びかけて、その力を活用した教育活動を多く取り入れていく。

職員が支え合い勤めたい学校を目指すためには、お互いが学校の顔である自覚をもち、学び続ける集団でありたい。教職者として率先垂範し、各自の良さをいかし組織的に教育活動を創っていく。ワークライフバランスを互いに尊重し合って、明るい雰囲気職場を作る。

◆教育目標・重点目標具現の具体策

1 「高め合い学びたい学校」に向けて（子ども）

（1）魅力ある学校・学級づくり（授業や行事、休み時間を通した一人一人の居場所・絆作り）

- ・明るくあいさつを自分からできる、返せることを認め合い、推奨していく
- ・行事や学習活動において、めあてを立て、後に振り返りお互いに認め合うことで、達成感・成就感をもたせ、自身の成長自覚につなげる（あゆっ子メッセージカードの活用）
- ・いじめ・不登校・問題行動への的確・組織的な対応を図る。いじめ見逃しゼロ・未然防止を行う

（2）「主体的・対話的で深い学び」への授業改善と「基礎的な学習作り」の二刀流の推進

- ・ICTを積極的に活用し日々の授業改善を進め、「個別最適な学び」「協働的な学び」を目指す
- ・計画的なドリル学習や家庭学習（ICT活用を含む）を大事にし、基礎テスト等の取組継続を行う
- ・NRT、全国学テ、Web配信テスト等のデータを基に成果と課題を共有し、重点化指導に生かす

（3）安心・安全な学習環境（制限緩和禍の、個に応じた生活様式定着と認め合う仲間作り）

- ・居心地のいい学校・学級集団のために、特別活動の充実（異年齢若あゆグループ活動や会社活動・「ふわふわ隊」の活動等）、web Q-U 調査の活用を行う
- ・特別支援教育の視点を重視し、「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」の立案、実践を行う。職員間で連携し一人一人の特性に応じた対応や交流学习、UDLや個別支援の工夫を行う
- ・健康な心と体作りのために、個に応じた感染症対策、継続的・系統的な保健指導（メディアとの上手な付き合い方を含む）、SC（スクールカウンセラー）と連携した相談活動を行う

2 「認め合い通わせたい学校」に向けて（保護者・地域）

（1）笑顔あふれる教育実践の情報発信（子どもたちの活動・活躍の姿の広報）

- ・HP「日々日記」の更新、廊下掲示写真「あゆっ子の1年」の作成、学校・学年・学級便りの充実

（2）保護者・地域の願いや良さを生かした活動の設定（保護者・地域と子どもたちの関わりの充実）

- ・CS推進員や地域Coと連携し、「あゆっ子野菜プロジェクト」やキャリア教育や地域を知る・伝える総合的な学習などの開発、充実、発展を図る

（3）中学校区での連携・交流の充実（つながりと見直しをもった連携事業の見直し・精選）

- ・各校の教育活動や子どもの実態を、中学校区で共通理解し、精選・見直しを含めて共に目指す姿や取組を明確化する（地区教振）

3 「支え合い勤めたい学校」に向けて（職員）

（1）自分の得意分野を見つけ、磨き、「のりしろ」を出し合って支え合う職員集団

- ・たくさんの校務を効率化するため、自分の能力・労力・時間を傾斜配分する（○だけはやる！）
- ・全員が子どもの担任という共通認識で、子どものために仕事のヘルプを出し合える集団になる

（2）市教員の勤務時間の上限に関する方針に則って、各自のワークライフバランスを大切に

- ・校務終了予定時刻（上限 19:00 以下）を各自設定し、その中でできる校務を計画的に行う
- ・子どもたち、職員個々の家族のために無理せず、リフレッシュ年休、早出遅出勤務等取得する

（3）ちょうほうれんそうかく（調整、報告、連絡、相談、確認）をし、お互いの仕事が見えやすい職場に

- ・教育活動の重点化を目指し、積極的に精選アイデアを出し合う（教育活動振り返りシート活用）
- ・公務員としての自覚を忘れず、自律的に非違行為防止に努める